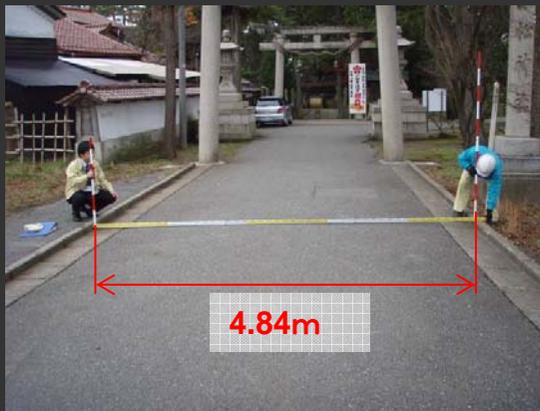


基本的考え方

施設配置 計画(案)

利用導線の考え方

現有機能を確保（利用・防災）すること



現況参道の幅員を実測

消防ポンプ車CD-1型の通行を想定

既存施設への影響を最小限とすること



基本的考え方

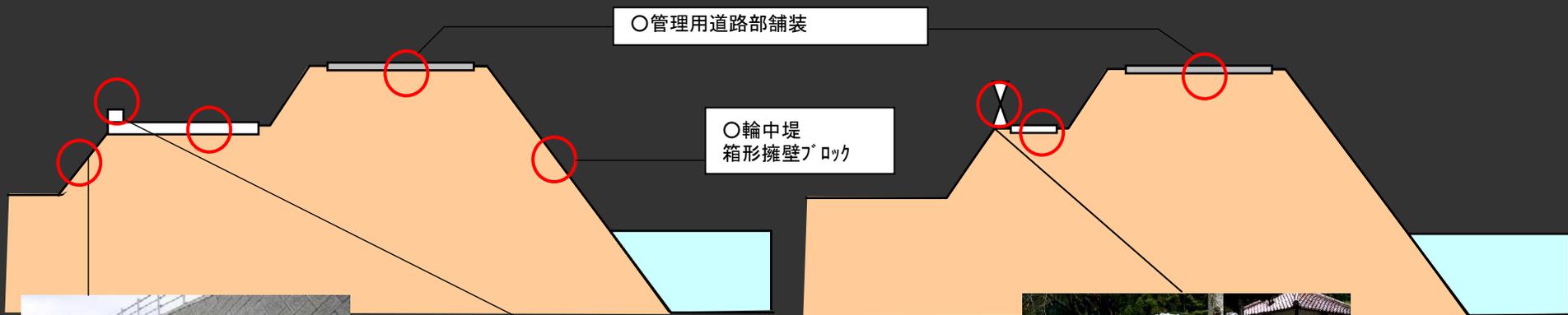
施設配置 計画(案)

輪中堤内施設の内容

- 河川施設として十分安全性を確保できること
- 天満宮の景観になじみシンプルなものであること
- 河川整備に伴う補償で整備が可能であること
- 将来的な管理が容易であること

車道(歩道)部

階段部



○坂路・階段部擁壁
コンクリートブロック擁壁



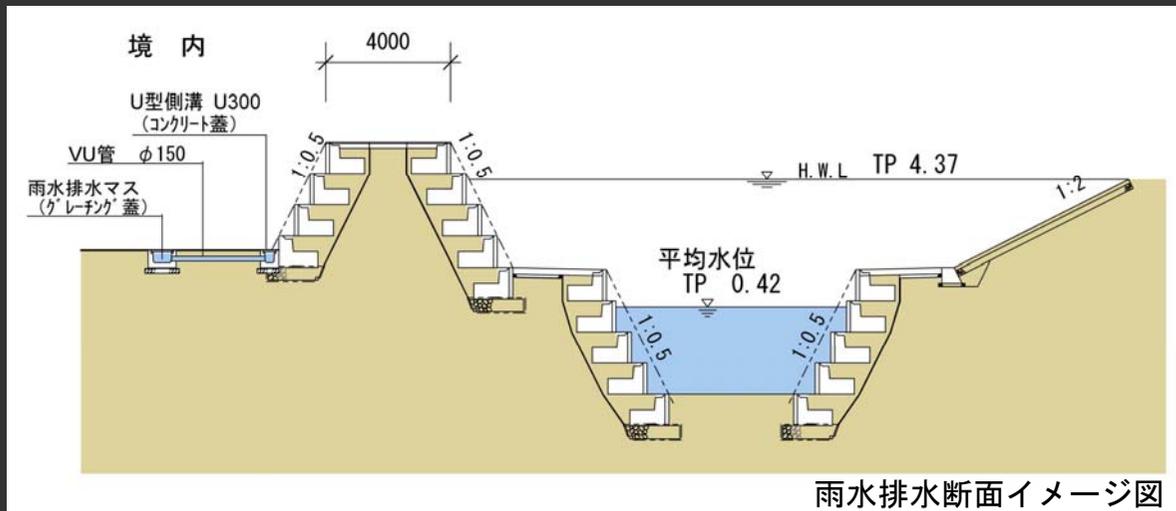
○本川側堤防端部
歩車ブロック縁石



○歩行者用動線端部
ステンレス手すり

雨水排水設備確保の方針

- 輪中堤内の安全性確保を大前提とする
- 現況地形の改変を最小限とする
- 既設の雨水排水施設を最大限活用する
- 雨水排水は河川の流水方向（東から西）に合わせ流下させる



施設配置 計画(案)

東側連絡橋

第3種4級規格
幅員：車道6.5m
歩道1.5m
延長：約26m

西側連絡橋

幅員：4.0m
延長：約30m

雨水流末ポンプ

— 既存水路
- - - 計画水路

